令和5年5月12日

名護市
市長　渡具知　武豊　殿

九州考古学会
会長 宮本一夫

沖縄県名護市嘉陽上グスクの保存と活用について（要請）

標記の件について、嘉陽上グスクは沖縄に約300箇所あるグスクの中でも十数カ所しか確認されていない「土のグスク」であり、グスクの多様性を物語る上で重要な意義をもつと同時に、日本の中世城郭との類似性も指摘されております。

現在、名護市教育委員会によって進められている発掘調査によって、丘陵のほぼ全面にわたって、保存状態の良い切岸や曲輪、柱穴等の遺構群が数多く検出されており、中でも良好な保存状態の鍛冶遺構の確認は、琉球列島で稀少であり、東アジアにおける鉄の文化を考えていく上で貴重な事例として注目されます。こうした成果は、13～15世紀における沖縄のグスクの多様性や、機能の解明に迫る重要な手がかりとなるものです。上記のような重要性に鑑みて、本学会は、嘉陽上グスクの学術的意義を明らかにするため、今後の調査研究に十分な期間と体制および予算を確保するとともに、その成果を広く公開し、同グスクの保存と活用について十分な検討が行われますよう、下記の要請書を提出いたします。

記

一、　別添 要請書 一通

連絡先　〒819-0395　福岡県福岡市西区元岡744
九州大学比較社会文化研究院
基層構造講座内　九州考古学会事務局
電話・FAX　092-802-5665

令和5年5月12日

名護市
市長　渡具知　武豊　殿

九州考古学会
会長 宮本一夫

沖縄県名護市嘉陽上グスクの保存と活用について（要請）

琉球・沖縄のグスクは、500年にわたって受け継がれてきた貴重な歴史遺産であるばかりでなく、日本の中世史や城郭史を考える上でも極めて重要な意義をもつものです。それらの一部は世界遺産に登録されており、国際的にも高い評価を受けております。

嘉陽上グスクは、石垣をもたない点で世界遺産に登録された首里城跡や今帰仁城跡などの大規模グスクとは異なる性格をもち、「土のグスク」とも呼ばれております。このようなグスクは沖縄に約300箇所存在するグスクの中でも十数カ所しか確認されておらず、グスクの多様性を物語る上で重要な意義をもつと同時に、日本の中世城郭との類似性も指摘されております。

当該グスクでは令和3年9月より嘉陽上城構内道路整備工事に伴う緊急発掘調査が行われ、丘陵のほぼ全面にわたって、保存状態の良い切岸や曲輪、柱穴等の遺構群が数多く検出されています。これらの遺構群に伴って13～15世紀にかけての陶磁器類や、金属製品、ガラス玉なども出土し、長期にわたってグスクが利用されてきたことが明らかとなりました。

また、丘陵上の平坦面に設けられた曲輪内で確認された鍛冶遺構は、中世期のものとしては極めて保存状態が良く、東アジアにおける鉄の文化を考えていく上でも貴重です。こうした調査成果は、グスク内に設置された鍛冶場において、各種の利器や武器類が製作、加工されていたことを物語ると同時に、従来、沖縄では未解明であった 13～15 世紀にかけてのグスクの空間利用や機能を具体的に解明する手がかりとなるものです。

最近の報道によれば、従前の開発計画に対して、上記のような鍛冶遺構の重要性から、それらの現地保存を目的とした部分的な計画変更がなされ、さらに地域住民の間でも同グスクに対する重要性が再認識されています。これまでの調査の結果、明らかとなった嘉陽上グスクの重要性に鑑み、本学会はその学術的意義に関する検証をいっそう進めるために、万全な調査研究体制を整えると同時に、その調査成果を広く公開・発信し、同グスクの保存と活用について十分な検討が行われますよう、下記の通り要請いたします。

記

1，嘉陽上グスクにおいて確認され現地保存が予定されている鍛冶遺構について、その学術的意義や遺構・遺物の保存に関して、有識者を交えて検討を行うとともに、適切な保存・活用をめざすこと。

2，開発事業に関わる未調査部分の調査にあたっては、十分な期間と体制及び予算を確保し、調査の結果、重要な遺構等が確認された場合には、嘉陽上グスクの学術的意義をふまえた上で、県内外に広く調査成果の公開・発信に努めるとともに、それらの保存・活用を検討すること。

3，嘉陽上グスクの学術的・社会的重要性に鑑み、可能な限りその価値を減ずることなく、未来に継承できるよう、史跡指定を視野に入れつつ保存・活用について再検討すること。